

第66次湘南教研

話そう 悩もう 考えよう

8月20日(土)、藤沢市立富士見台小学校を会場に第66次湘南教育研究集会を開催しました。今年は、『話そう 悩もう 考えよう』をテーマに掲げ、各分科会で推進委員の司会により、実践発表やそれにもとづく活発な討議が行われました。参加者の感想からは、「小グループで話がはずみ、他校の方と意見交換をすることができ有意義な時間を過ごすことができました。」「9月から実践してみようと思う事例がたくさんあり、子どもたちに出会うのが楽しみになりました。」「最後に少しだけしか参加者が発言する機会がなかったのが残念。」等々、テーマの妥当性・周知をはじめ来年度のとりくみに向けた課題も出ました。

また昨年に引き続き、道徳学習会・社会科学習会を行いました。午前の道徳学習会では目前に迫る道徳の教科化、教科書採択、評価の問題などについて学習を深め、午後の社会科学習会では、中学校教科書が抱えている問題点と私たち現場の課題について、参加者で考えました。

「春からの忙しい時期での教研準備は大変ですが、当日を迎えるとやはり大切なもの、有意義なものと感じられました」という参加者の声を胸に、そして様々な観点からのご意見をもとに来年度に向けた話し合いを持ち、よりよい教研を目指していきたいと思います。最後に会場として、使用を快く引き受けていただき、事前準備から片付けまでお手伝いいただいた富士見台小学校の皆様に厚く御礼を申し上げます。



県教研参加レポート決定！

第66次県教研「かながわ教育フェスティバル2016」はここ湘南地区で開催されます。湘南から発表するレポートも決まりました。発表者の方を中心に、湘南教研での議論をふまえ、他地区の参加者との情報・意見交換を期待しています。参加体制など詳細は指示第16・17号でお知らせしていますので、ご覧ください。

10月15日(土) 全体会

会場：藤沢市湘南台文化センター

オープニングイベント：

「オリラニフラスタジオ」のフラダンス

記念講演：講師 そえじま 副島 まさかず 賢和さん（作家）

10月29日(土) 分科会

会場：茅ヶ崎小学校

分科会・ワークショップ

特別分科会

展示ブース を開催します。

東北支援のご協力ありがとうございました！！！！

今年も各分科会会場に、東北支援のための義捐金を募らせていただきました。皆様のご協力により、**191,708**円の義捐金が集まりました。この紙面をお借りしまして、お礼申し上げます。この義捐金は震災ボランティア活動（10月22～23日）の際に福島県教組に届けます。

分科会の感想より

- 「話す・聞く」の授業実践について日々悩んでいたもので、この場で多くの実践の話が聞けて良かったです。アクティブラーニングという言葉が昨今意識しがちですが、つけたい力を確実につけるための教材研究に日々努めていきたいと強く感じました。
- 昨年度に引き続き、外国語分科会に参加させて頂きました。教科書をただ単に扱うのではなく、そこに隠されたものを読み取り、生徒へ伝えていく大切さを学ぶことができました。
- 小学校の地域教材のレポートもよかったし、中学校のレポートもそれぞれよかったと思います。やはり、レポート数が多いといいですね。教科書の比較で批判力をつけ、思考力を伸ばしていく実践はとても面白かったです。
- 算数を好きになるってどんなこと？できるから楽しいということも大切だと思います。同時に算数ができないけど楽しいとは？を考えていきたいと思います。
- 発表も良かったですし、ワークショップもとても楽しかったです。また来年も参加したいです。発表だけの教研ではなくて、経験豊富な先生のワークショップをとりいれた教研になると毎年、毎年参加するのが楽しくなると思いました。
- 中学校の「美術」という観点から考える作品作りは、小学校の「図工」にも生かせる面白さがありました。土、水、パッケージ。小学生で子どもたちにとりくませるとしたら、どんな方法がいいだろう、有効だろうと考えるだけで面白かったです。
- 先生の「楽しいことを子どもたちとやる」というお話がとても良かったです。教えるのではなく、教えられるというのは素敵なことですね。
- 技術・家庭科教育の分科会の参加でしたが、普段では聞くことのできない話を多くきくことができました。その中で苦労されている点は他教科では考えられず、このような教研だからこそ話し合いができた点は良かったです。
- グループ協議の中で各地区の状況や困り感を共有することができ、とても心強かったです。原則あるべき姿を確認することができました。
- 総合のテーマ決めの大切さが伝わってきました。経験がないことでもいいことがあると知ることができました。子どもたちと一緒に考える中で見いだす大切さが分かりました。
- 中学校ともなると自治の範囲が広がり、高度なものになっていることがうかがえた。さらにここから高校、社会人となっても物事に主体的に関われるように小学校のうちからとりくみたい。
- 何が正しいのか、正しいと思っていることも本当に正しいのか、そもそも正しいことなんて存在するのか。そうやって学び、悩みながら子どもと向き合っていくことが大切なのかな。
- ユニバーサルデザインの発表を聴いて、誰のための「教育条件整備」なのか改めて確認することができました。色々な個性を持った子ども全員が、安心して過ごしていける視点を忘れないでいきたいと思います。
- 自分の学校の問題を自分の分会で話題にできない今、地区地域単位で話し合いができたことが意義深いものであり、今日は参加して良かったと思っています。



湘南教研 道徳学習会

湘南教組はこの間、道徳の教科化に反対の立場から、さまざまな学習会の場で組合員のみなさんと意見交流をすることで、道徳の教科化に対する課題や問題点を提起してきました。特に、教科化されることで、教科書が採択されることや評価をしなければいけないことについては、単一的、また一方的な価値観を子どもたちに教えることにつながる、子どもたちの人格を評価していいのかという疑問や懸念等が大きな課題です。

今次教研では、新潟大学の世取山洋介さんを講師に招き、『特別な教科「道徳科」と教育の「個人化」』をテーマにして学習会を行いました。さまざまな課題がある中でも粛々と進められる道徳の教科化に対して、現場の教職員が今後の教科書採択も含め、どのように向き合っていくべきかを提起した内容の学習会となりました。

講演では、文科省の『「特別な教科 道徳」の教科書検定について』や「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」の報告に触れ、かねてからの課題であった検定教科書の見方、「道徳科」の評価を現段階で総括していただきました。

講師の世取山さんの話の中では「小学校では2017年度、中学校では2018年度に行われる教科書採択においては、非科学的な要素が極力少ないもの、現代的な課題（人権、環境、国際問題等）にどれだけ深く触れているかの視点をもって臨むことが大切。また、評価については、個人内評価であり、数値評価を行わないこと、また入試には利用しないことを踏まえ、現状の文科省の報告の内容ならば、これまでの成績表の所見で切りぬけられるであろう、問題は、この先文科省がその姿勢を続けるか注視していくことが大切」とのことでした。

湘南教組は今後も反対の立場からさまざまな学習会を行い、現場の組合員のみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。



～参加者の感想～

○教科書や副読本を使って授業したいと思う道徳ですが、批判的な目を持っていかないとまちがった方向に子どもたちを導くことにつながると思いました。どの教科もそうですが、教材研究を大切にして慎重に扱っていききたいです。自分たちの言葉や発するメッセージが子どもたちの人格形成や社会にまで影響を与えるものだということを改めて自覚した一日でした。

○道徳の授業は避けたい面が多く、どうしていけば良いのかわからないがしろにしていた。まずは、学習指導要領を自分なりに理解し、どうしていくべきか考えていきたいと思った。批判的見方を大切にし、一人一人の人格を否定せず、集団で考えていけるような授業をつくっていこうと思った。

○「科学的な真理」で道徳を行っていくという視点で教材を見ていきたいと感じた。そして、教員が組合を中心として普遍的な教材を作り、広めていくことが対応の第一歩であると感じた。

社会科学習会「中学校「歴史」「公民」教科書をめぐる諸問題」

～ “日本国憲法と平和主義” を中心に～

今年の社会科学習会は『中学校「歴史」「公民」教科書をめぐる諸問題」～ “日本国憲法と平和主義” を中心に～』と題して、中学校社会科教科書がいま抱えている問題点と私たちの課題について、報告をもとに参加者の皆さんと考えていきました。

「教科書採択をめぐる情勢報告」では、「藤沢の教科書・採択問題にとりくむ会」を中心としたこれまでのとりくみの報告のあと、藤沢の教科書採択の問題点について、大阪府内の教科書採択をめぐるニュース映像などを通して学びました。



「教科書の比較検討」では、社会科の主要テーマである「日本国憲法と平和主義」を題材に、＜①教科書会社“2社”の教科書比較＞と＜②小学校教員と中学校教員の“2者”の視点による教科書比較＞を行いました。①については「育鵬社」と「学び舎」を取り上げて比較することで、教科書が教えたいことの違いを明らかにしました。②については、小学校から中学校へと続く、子どもたちの学びの連続性という点で教科書がもつ意味を考えました。

5人の報告者はそれぞれの視点から、「育鵬社」の特異さと、これを使った授業が子どもと教師にもたらす様々な困難の深刻さについて指摘していました。

参加者のみなさんからは「比較がわかりやすかった」「よく研究されていて、勉強になった」という発表形式・内容に関する感想や、「教科書が子どもを変えてしまう危険」「子どもの考える力を育てたい」「この先に待っているものが何か、教師は意識しなくてはならない」「忙しさに流されず、日々の授業に向き合いたい」といった自戒の念を込めた感想を多数いただきました。

現在、有志による「社会科教科書研究会（略称：教科研）」が、社会科教科書の問題と教育実践について研究しています。校種・専門は問いませんので、ぜひ書記局へお問い合わせください。

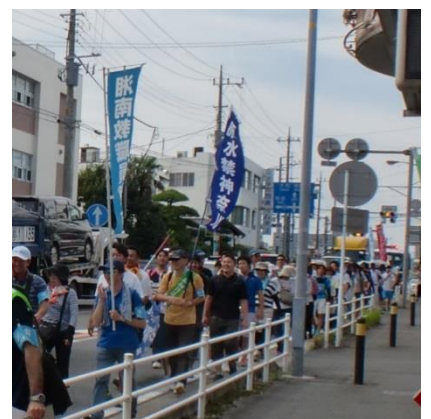
朝早くから、最後まで役割を果たしていただきました会場係、記録係、警備係そして推進委員の皆様、本当にありがとうございました。

原水禁平和行進

7月28日、原水禁平和行進を行いました。例年に漏れず今年度も暑い中、鎌倉コース（鎌倉市役所～池子米軍住宅前）、藤沢コース（湘南台公園～藤沢市民会館）、茅ヶ崎・寒川コース

（茅ヶ崎市役所～藤沢市民会館）の3コースに分かれて歩きました。核のない平和な世界の実現を訴えながらの行進に向けて、沿道から賛同の声をかけていただいたり、手を振ってくださったりの応援で暑さもやわらぎました。

集団的自衛権を容認する安保法制が施行され、改憲勢力が国会の3分の2以上を占めることになったこの夏、これまで以上にこうしたとりくみを続けていくことが重要になっています。



2016人事院勧告 月例給＋0.17%・一時金＋0.1月

3年連続の引き上げに向けて好発進！

人事院は8月8日、国家公務員の給与に関する勧告を、内閣と国会に提出しました。私たち地方公務員の給与は、国家公務員の給与などを考慮し、神奈川県の人件委員会が知事・議会に対して給与勧告を行います。国段階では引き上げの勧告が出ましたが、私たちに直接関係する県段階での交渉はまさにこれから始まります。月例給アップに向けて、署名や寄せ書きなどのとりくみが重要になります。

国家公務員の給与勧告のポイント

- ① 民間給与との較差（708円、0.17%）を埋めるため、俸給表の水準を引き上げ
- ② ボーナスを引き上げ（0.1月分）、民間の支給状況等を踏まえ勤勉手当に配分（4.20月分 → 4.30月分）

	6月期	12月期
2016年度 期末手当	1.225月（支給済み）	1.375月（改定なし）
勤勉手当	0.80月（支給済み）	0.90月（現行0.80月）
2017年度 期末手当	1.225月	1.375月
以降 勤勉手当	0.85月	0.85月

- ③ 配偶者に係る手当額を減額、それにより生ずる原資で子に係る原資を増額。
（配偶者及び父母等：6,500円 子：10,000円）

2017年度、国の教育予算（概算要求）

文科省、教職員定数 3060 人増を要求

文科省は、8月31日、2017年度教育予算（概算要求）について公表しました。市町村立学校の教職員の給与は、義務教育を支える立場から、国が1/3（残りの2/3は県の負担）を負担しています。そのため、教職員定数を改善するには、国の教育予算の拡充が重要となります。概算要求のおもな内容は以下のとおりです。

- ① 公立小・中学校の教職員定数を全国で3060人増とし、10年かけてさらに増員する。
- ② スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを増やし、常勤化に向けた研究を行う。
- ③ 部活動指導手当を1日当たり600円増の3600円へと引き上げる。
- ④ 無利子奨学金の貸与人数の増員や「所得連動返済型奨学金制度」の確実な実施の対応をすすめる。

これまで財務省は教職員の削減を主張してきたことから、12月の政府予算案の決定まで、厳しい状況が予想されます。教育予算をめぐるのは、秋の臨時国会で審議されることとなります。今回の参議院議員選挙で当選した「なたにや 正義」議員をはじめ、教育現場出身議員の活躍が期待されます。

子どもたちに豊かな学びを育むために、子どもと向き合う時間を確保する観点から、教職員定数の改善は大切です。湘南教組も、引き続き、とりくみをすすめていきます。



2016年度

教職員バレーボール大会＜湘南大会出場校＞

茅ヶ崎寒川地区	女子の部	1位：茅ヶ崎小学校	2位：浜須賀小学校	3位：西浜小学校・梅田小学校
	男子の部	1位：西浜小学校	2位：汐見台小学校	3位：柳島小学校・香川小学校
藤沢地区	女子の部	1位：鶴洋小学校	2位：明治小学校	3位：六会小学校・秋葉台小学校
	男子の部	1位：滝の沢中学校	2位：天神小学校	3位：御所見小学校・湘南台小学校
鎌倉地区	女子の部	1位：深沢小学校	2位：山崎小学校	3位：大船中学校・御成中学校
	男子の部	まだ決勝大会を行っていないため、予選で勝ち進んだ学校を記載します。 （小坂小学校・岩瀬中学校・第一中学校・手広中学校・深沢小学校・深沢中学校）		

沖縄スタディーツアー2016



出発前日、沖縄県那覇市の天気予報は 3 日間雨予報、、、執行部の一人が雨を呼ぶパワーを持っていたのですが！沖縄に到着すると上の写真のとおり！晴天でした！きっと参加者の方々に晴れを呼んでくれるパワーをお持ちの方がいたのですね！感謝感謝！

●1日目 平和学習・懇親会

初日は 1 日かけて平和学習です。バスガイドさんや現地の方々の説明をいただきながら、ひめゆりの塔・平和祈念公園・平和の礎・糸数壕を見学しました。写真はひめゆり平和祈念資料館に入る前の写真です。沖縄の多くの人々の尊い命が奪われた戦争について深く学び、考えることができました。



●2日目 辺野古・海洋博公園

豪雨でした。嵐の中の辺野古見学。こんな悪天候の中でも毎日基地移設反対の運動をしている人たちがいました。沖縄の海をこの目で見て、絶対にこんなに美しい海を基地埋め立てで失ってはいけないと強く思い、自分にもできることは何か考えさせられました。

●3日目 学習会・普天間基地

午前中は昨年まで執行部だった大村さんによるこの2泊3日を総括した学習会です。沖縄と湘南との大きなつながりについて教えていただきました。

また現役執行部による組合についての話をさせていただき、参加者の方々は真剣に話を聞いていただき、充実した時間になりました。

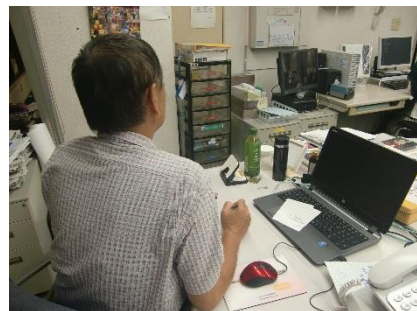


【参加者の感想】・学生の時以来のひめゆりの塔、平和祈念公園の見学だったのですが、社会人になってから改めて平和について考える良い機会になりました。また糸数壕には初めて行きましたが、まさに百聞は一見にしかず。聞くだけの情報よりも如何に自分の目で見て体験することが大事かということを感じました。・組合って何だろう？ずっとそれは思っていました。しかし今日、自分を守るため、そして相手を助けるために必要なことだということが分かりました。組合は人を助けるために必要だということを伝えていきたいと思います。一人ではできないことも、みんなではできる。組合のことをもっともっと理解していきたいです。

執行部のつぶやき

物を仲立ちとする職業よりも人の成長に直接かかわれる職業に就きたいと思って教員になったが、あるとき、大学の友人から「お前が教員になっているとは思わなかった。」と言われた。自分では、具体的な教師像をそんなにもっていたわけではないので、あまり考えたことはなかったが、言われてみると思い当たる節があった。今でもそうであるが、子どものころは、今以上に人前で話すのは本当に苦手であった。目が合わせられないし、顔が熱くなっているのを感じ、うまく話をするのができなかった思いがかなりある。まして、話題の豊富な人を見ると羨ましいと思うことは、今でもある。就職したころは、周りの人には分かりづらい新人だっただろうと思う。職場の先輩にはよくしてもらった。様々な個性派がそろっていた。その頃の職員会議は波風が必ず立つ場であった。よくわからないこともあったが、軽重はあってもみな真剣であったと思う。人間も濃かったかもしれない。1歳下の先輩にはいろいろなことを教えてもらった。いろんな先輩から注意されたことも結構あった？と思う。みんなで遊びにもいった。イチゴ狩り、スキー、…。

組合には最初の年から入っているのでも随分長くなった。分会も定例でやっていて面倒と思うときも正直あったが、今思うといろいろなことを学べたし、学校は子どもを除いたら教員のためにあると無意識に思っていた自分に気付かされた。一人職種の人、介助員、調理員さん、用務員さん（市職）など、さまざまな人がいて学校は成り立っている。立場が違っても働きやすい職場であるために組合は大事だと思う。それから、出勤簿を毎日つけるようになった。教研の推進委員を他地区の人と一緒にやったことがある。三市一町にはいろんな教員がいるものだったし、システムも違うということを知らされて、見分が広がった。多くの人が教育に携わり、組合を支えているという実感を持った。教育の意味するところは広いし、教育に携わっている人もたくさんいる。組合も方向を模索し、成長し、変化をたえずしているし、それを求められている。個人で悩むよりも、悩みがあったら共有してその輪を広げれば何かができるかもしれない。それが分会であり、組合であると思う。教職の魅力はそこに1つあるような気がしている。



福島の子ども達を湘南によぼう！

湘南は今年度も、「福島の子ども達を湘南によぼう！」藤沢実行委員会が主催する湘南保養プログラムを支援しました。

福島の南相馬からは、20名を超える小中学生とその家族が、7月29日（金）～7月31日（日）の期間、日大の農場研修センターで宿泊し、この湘南の地で楽しいひとときを過ごしました。当日は、地元の高校生や大学生も参加し、ヨット体験や地引網体験などで交流することができ、海水浴やスイカ割りなどで楽しむ子どもたちの笑顔が印象的でした。



福島県の被災地では、未だに復興が進まずに、生活が制限されている現状があります。湘南教組は、引き続き被災地支援の活動に積極的に取り組んでいきます。

今回もたくさんの組合員によるボランティアの参加、ありがとうございました。また、皆さんからのカンパも、365,109円集めることができました。今後も引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

参加者募集

第11回震災ボランティア活動

湘南教組では東日本大震災以降、ボランティア活動にとりくんできました。福島県南相馬市小高区の予定です。安全性は確保されている地域での作業ですが、湘南地域と比較すれば放射線量が高い所もあります。そのことをご理解の上、ご参加をお願いいたします。

費用 12,000円 【詳しくは分会用の案内で】
申し込み方法 申込用紙（各分会に配布済み）に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください。湘南教組書記局に直接持参しても結構です。

※締切り 9月26日(月) 17:00まで

1. 日時 2016年10月22日(土) ～10月23日(日)
(※ボランティア活動は雨天決行ですが、荒天の場合は中止になることもあります。)
2. 場所 福島県福島市・浪江町、双葉町方面（フィールドワーク）
相馬市小高方面（ボランティア活動）

※申し込み後のキャンセルは極力ご遠慮ください。

※ボランティアは自己責任・自己完結が原則です。

神奈川県

教職員スポーツ大会開催！！

<競技・日時・場所>

ソフトテニス…11月19日(土)

横山公園テニス場

バレーボール…11月23日(水・祝)

南足柄市体育センター

卓球……………11月19日(土)

川崎市麻生スポーツセンター

バスケットボール…11月19日(土)

横須賀市立横須賀総合高校

サッカー…………11月23日(水・祝)

伊勢原市総合運動公園

伊勢原市立成瀬中学校

* 詳細は各分会に配布されています
ポスター等をご覧ください